

生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会資料

2010年9月10,11日開催

仕立てられた女性身体－メディアに現れた代理母と依頼者

柳原 良江 東京大学人文社会系研究科・グローバルCOEプログラム特任研究員

要旨 日本の代理出産に関する報道は依頼者の要望に焦点があてられ、懐胎者に関する具体的な記述はあまりなされてこなかった。わずかながら存在する記述も、依頼者や斡旋業者により、特定の利益を求めるバイアスに沿って述べられたものである。しかし国内における具体的記述の少なさ故に、日本ではそれらが唯一の懐胎者像として流通している。本稿では、これらメディアが報じた代理出産に関する言説をもとに、社会がごく普通の人間である懐胎者に特別な意味を付与し、それによって彼女の身体が他者により利用可能な対象へと変換される過程を説明する。またそれと併せて、依頼者の女性には、彼女の「子を持つ欲望」に基づいて母性を付与することにより、彼女を特別な存在と位置づけていく過程にも言及する。